

3 市場経済の機能と限界

- ★ 市場において価格はどのような役割を果たしているだろうか。
- ★ 市場は必ずしも万能ではないといわれるのはなぜだろうか。
- ★ なぜ独占禁止法による規制が必要となるのだろうか。

市場メカニズム

現代の経済社会では、生活に必要な財のほとんどすべてを、自給自足でなく、他者の生産に負っている。このことは市場経済においても、計画経済においても変わらない。計画経済では、生産する財の数量と価格は原則として国家が定める。しかし、公定の価格でパンや肉を買おうと思っても、品不足で手に入らないことがある。崩壊する直前の旧社会主義圏は、生活必需品ですら十分に行きわたらないという状態であった。いっぽう、市場経済では、家計も企業も市場で対価を支払って必要な財やサービスを入手する。では品不足が生じたときも、対価を支払えば必要な財やサービスを入手することができるのだろうか。

計画経済と市場経済の違いは、前者においては品不足のときにも価格が変化しないのに対し、後者においては消費財であれ生産財であれ、品不足のときには価格が上昇するということである。一般に競争的な状態の市場では、需要(量)が供給(量)を上回る(超過需要)ときには価格が上昇し、供給量が需要量を上回る(超過供給)ときには価格が下落する。一方で、価格が上昇すると、需要量は減少して供給量は増加し、価格が下落すると、需要量は増加して供給量は減少する。このため、需要量と供給量の間にギャップがあるときには、価格の変化を通して品不足や品余りが自然に解消される(価格の自動調節機能)。需要量と供給量を一致させる価格は均衡価格とよばれる。

市場経済では、価格は資源(生産財、消費財)の過不足を示し、価格が変化することで需要と供給が調整され、ひいては希少な資源が無駄なく配分される。このような市場の働きは市場メカニズムとよばれる。市場メカニズムがうまく機能すれば、効率的な資源配分が実現できる。

市場の失敗

しかし、市場は必ずしも万能ではない。競争の状態や財・サービスの性格などにより、市